



「免疫力を高めたがや」を、がんと共に生き、延命できればという治療法を主体に指導しています」と語る吉水院長

「現代医学から見放されても病と共存できればよい」との基本理念と、患者を思う立場から、くつろぎと癒しの空間、を設置したサロン風自由診療のクリニック「健康畑せたがや」(世田谷区用賀)が、評判を呼んでいる。

### 開院を思い立ったのは医師夫人

「健康畑せたがや」を、理石のフロア。そこに訪ね、まずビックリしたのはベルシャジュウたんたのは、どこにも病院が敷かれ、天井にはシラシラがないというこ



東京・世田谷区用賀

このくつろぎ空間を発想したのは、吉水信裕院長(ガールデンクリニック中町院長)夫人、吉水公子さん。その設立の動機は、長年にわたり、医師の妻として難病に苦しむ人々たちを見続けてきたからだという。

## 「ガーデンクリニック中町」が開院した

## 難病患者の希望を育む

# 「健康畑せたがや」の評判



患者や家族、関係者とクリニックとの懇話会では、病改善への熱い質疑応答が...



吉水院長が患者と一対一で解説・診断。吉水院長の診断後、治療が始まるのだが、最初は、免疫力強化のために腸内洗浄で体内にたまった毒素を排除、その後、レーザー光線による血管洗浄、ラドンミストイオンルーム浴、遠赤外線療法、バイオマツト温熱療法、ピラ温灸療法、高気圧エアチ

「当初は、主人にも消化器外科医である長男にも医師でもないのにと猛反対されました。でも病院には、陰気なイメージがあり、よくに難病の方はつらくて暗い心を抱いていると思えます。そうした方たちに、ケアや治療だけでなく希望を与え、恐怖心を起こさせないための施設が必要ではないのかと必死に説得したのです」と語る公子夫人。今ではご主人の吉水信裕院長も全面的にバックアップ、東洋医学的な病気のなかにわたり

### 免疫強化療法で医療関係から高い評価

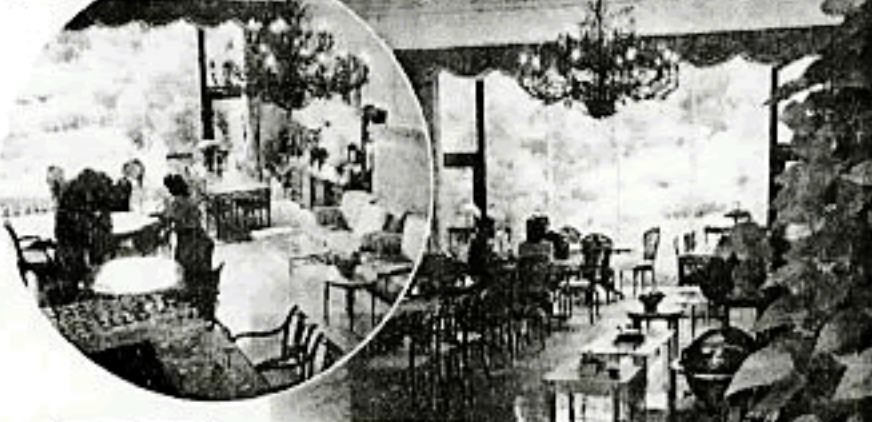
「当初は、主人にも消化器外科医である長男にも医師でもないのにと猛反対されました。でも病院には、陰気なイメージがあり、よくに難病の方はつらくて暗い心を抱いていると思えます。そうした方たちに、ケアや治療だけでなく希望を与え、恐怖心を起こさせないための施設が必要ではないのかと必死に説得したのです」と語る公子夫人。今ではご主人の吉水信裕院長も全面的にバックアップ、東洋医学的な病気のなかにわたり

- 吉水信裕 (よしみずのぶひろ) 医学博士  
 専門分野 神経病理、脳神経外科  
 略歴 1943年(昭和18年)生まれ  
 1968年 東京大学医学部卒業  
 1968年 東京大学 脳神経外科教室 入局  
 1973年 米国メイヨークリニック 神経病理・脳神経外科(1975年) 留学  
 1975年 自治医科大学講師  
 1981年 財団法人河野臨床医学研究所 所長(北品川総合病院) 院長、脳神経外科部長  
 1989年 医療法人緑成会横浜総合病院 院長、脳神経外科部長  
 1994年 医療法人緑成会横浜総合病院 理事、院長、脳神経センター 長  
 2004年 日本免疫活性医学研究所 所長、ガーデンクリニック 院長  
 2006年 医療法人社団新緑会 脳神経外科 院長  
 資格認定 日本脳神経外科学会 専門医  
 日本救急医学会 専門医  
 所属団体 日本脳神経外科学会 評議員 日本救急医学会 日本救急医学会 cc

## 「体質改善をすれば、普通の暮らしができる」と吉水医博

エンバシ、皮膚療法、エナジープラス、可視光線療法、還元電極、早期ならば子治療などで、血管や血液などの体の隅々にたまった毒素を徹底的に排除する。さらには、患者の症状によってがんワクチン療法、ヨード注射、プラセンタ、活性酸素を除去するパプラー、ビタミンB17、ビタミンCの大量投与注射や最終地点と思われるニンニク、ゲルマニウム注射などの組み合わせで、良い効果が得られるという。吉水院長によれば、通常、病院でがん治療

### 高級ホテルのロビーと見まがうほどのやすらぎ空間



- ガーデンクリニック中町の治療過程
- ① → 毒素排除
  - ② → 基礎体温を上げる
  - ③ → 熱でがん細胞を弱体化
  - ④ → 光(太陽熱)を与えエネルギーを体内へ
  - ⑤ → 漢方薬で免疫機能を高める(マクロファージ、NKキの一細胞の活性化)
  - ⑥ → 難病患者はプラスイオンが多く、そのため電子発生器でマイナスイオンを注入し体内を調節し活性酸素を消去する
  - ⑦ → パプラー内服で活性酸素を消去
  - ⑧ → 血流、リンパ球の流れをよくする
  - ⑨ → 難病患者はうつ状態、自律神経症が多く、患者同士のふれあいが功を奏するのでその場を多くつくる